

受験番号

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（四十点）

この部分は、著作権の関係で

掲載できません。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（四十点）

受験番号

この部分は、著作権の関係で

掲載できません。

受験番号

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（二十点）

ある山寺の坊主、^{※1}慳貪なりけるが、^{※2}飴を治して只一人食ひけり。よくしたためて、^{※3}棚に置き置きしけるを、一人ありける児に食はせずして、^②「これは人の食ひつれば死ぬる物ぞ」と云ひけるを、この児、あはれ食はばや食はばやと思ひけるに、坊主他行の隙に、棚より取りおろしける程に、打ちこぼして小袖にも髪にも付けたりけり。日来ほしと思ひければ、一二、三杯よくよく食ひて、坊主が秘蔵の水瓶を、^{※6}あまだりの石に打あてて、^{※5}打破りて置きつ。坊主帰りたりければ、この児^{※7}さめほと泣く。「何事に泣くぞ」と問へば、「大事の御水瓶を、あやまちに打破りて候ふ時に、^④いかなる御勘当かあらむずらむと、^{※8}口惜く覚えて、^⑤命生きてもよしなしと思ひて、人の食へば死ぬと仰せられ候ふ物を、一杯食へども死なず、一二、三杯までたべて候へども大方死なず。はては^①に付け、^⑦Ⅱに付けて侍れども、未だ死に候はず」とぞ云ひける。慳貪の坊主、^⑥得るところなし。児の智恵ゆしくこそ。学問の器量も、^{※11}無下にはあらしかし。^{※12}

〔沙石集〕

- ※1 慳貪：欲が深いこと
- ※2 飴を治して：水飴を保管して
- ※3 したためて：食べて
- ※4 他行：よそへ出かけること
- ※5 小袖：袖の小さいふだん着
- ※6 あまだり：軒先から雨のしずくが落ちてあたる場所のこと
- ※7 さめほと：さめざめと
- ※8 口惜く：残念に
- ※9 よしなし：仕方がない
- ※10 大方：まったく
- ※11 器量：才能
- ※12 無下にはあらしかし：そう劣ることもあるまいよ

問1 線部①「置き置きしける」⑤「覚えて」の主語を文中から抜き出して答えなさい。

①	⑤
---	---

問2 線部②「これは人の食ひつれば死ぬる物ぞ」とあるが、坊主がこう言ったのはなぜか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 児にとつては毒なので食べないように念を押そうとしたから。
- イ 児に飴を与えてしまうと、修行のじやまになると考えたから。
- ウ 見え透いたうそをつき、児が見破れるか試そうと考えたから。
- エ 飴をほんの少しでも児に食べさせるのが惜しいと思ったから。

--

問3 線部③「食はばや」④「いかなる御勘当かあらむずらむ」の意味として、最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

- ③
- ア 食べないでおこう
 - イ 食べたくない
 - ウ 食べたいものだ
 - エ 食べてしまった

- ④
- ア どのようなお叱りを受けるだろうか
 - イ きつとお許しになるに違いない
 - ウ どうしても責任を取りたくない
 - エ なんとかしてごまかす必要がある

③	④
---	---

問4 Ⅰ Ⅱを補うのに適当な言葉を文中から、Ⅰは二字、Ⅱは一字で抜き出して答えなさい。

Ⅰ	Ⅱ
---	---

問5 線部⑥「得るところなし」とあるが、それはどういうことか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 児の信頼も坊主としての威厳も失ったということ。
- イ 飴を食われて水瓶も割られてしまったということ。
- ウ 児が死んで、孤独になってしまったということ。
- エ 知恵も学問も児には、かなわなかったということ。

--

問6 線部⑦「児の智恵ゆしくこそ」は「児の知恵は大変優れている」という意味であるが、どういう点で優れていたのか。その理由を説明した次の一文の（A）（B）を補うのに適当な言葉をAは五字程度、Bは十字程度でそれぞれ答えなさい。

児が坊主の言葉を逆手にとつて、留守中に飴を食べておき、坊主が帰って来たところで「誤って（A）しまったので、（B）けれど全く効果がない」と弁解した点。

A	B
---	---

問7 本文の内容に合うものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 児は手をすべらせて、坊主が大切にしていた水瓶を割ってしまった。
- イ 児は水瓶を割ってしまったことで、坊主に怒られると思い、泣いた。
- ウ 坊主は児が水瓶を割ってしまったことを知り、心から残念に思った。
- エ 筆者は児の賢さに感心し、学問の才能も優れているだろうと考えた。

--

問8 本文から読み取れる教訓として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 人をばかにするとしつぺ返しを食らうということ。
- イ 食べ物のうらみはとて恐ろしいということ。
- ウ 物を惜しんでうそをつく痛い目を見るということ。
- エ 子どもは大切にしなければならぬということ。

--